

第2回学校評価（市との比較）

12月に行われた、第2回学校評価アンケートの結果は、学校ホームページのメニュー欄「学校評価」に格納しています。

これは本校における経年変化をまとめたものでした。

本日（1/30）市教育委員会より、市全体の結果（児童・保護者）が出されましたので、今回は第2回学校評価の、本校と市全体の結果をまとめました。

令和7年度 第2回学校評価（市全体との比較）

(1)元気(体)

			質問	本校	肯定的評価	市	比較
市内共通	1	保護者	お子さんは、運動やスポーツに親しんでいますか。	75%		74%	+1
		児童	日頃から、運動やスポーツに親しんでいますか。	72%		74%	-2
市内共通	2	保護者	お子さんは、望ましい食習慣が身についていますか。	78%		80%	-2
		児童	給食では、栄養やマナーなどを意識して食べていますか。	88%		84%	+4

(2)本気(知)

			質問	本校	肯定的評価	市	比較
市内共通	1	保護者	お子さんは、目標を持って学習したり生活したりしていますか。	75%		69%	+6
		児童	目標を持って学習したり生活したりしていますか。	84%		79%	+5
市内共通	2	保護者	お子さんは、調べたいことやわからないことを自分から調べるなど、色々なことに興味を持って学習に取り組んでいますか。	68%		68%	±0
		児童	調べたいことやわからないことを自分から調べるなど、色々なことに興味を持って学習に取り組んでいますか。	78%		76%	+2
市内共通	3	保護者	お子さんは、日頃から読書に親しんだり、図書資料を使って調べ学習をしたりしていますか。	49%		50%	-1
		児童	日頃から読書に親しんだり、図書資料を使って調べ学習をしたりしていますか。	57%		53%	+4
市内共通	4	保護者	お子さんは、毎日の学習でタブレットを活用していますか。	40%		41%	-1
		児童	日々の学習で、タブレットを活用していますか。	89%		78%	+11

(3)勇気(徳)

			質問	本校	肯定的評価	市	比較
市内共通	1	保護者	お子さんは、友達と「お互いの良さを認め合う」ような関係づくりができていますか。	87%		90%	-3
		児童	友達の良いところを見つけることができますか。	94%		93%	+1

(4)信頼される学校

			質問	本校	肯定的評価	市	比較
市内共通	1	保護者	学校は、保護者や地域の方々と共に、子どもを育てる取組を進めていると思いますか。	87%		87%	±0
		児童	学校の活動で、地域の方たちと共に学ぶ機会がありますか。	60%		57%	+3
市内共通	2	保護者	学校には、一人一人のニーズに対応したきめ細やかな支援体制が整っていると思いますか。	78%		74%	+4
		児童	困ったことがあった時に、相談できる先生がいますか。	80%		73%	+7
市内共通	3	保護者	学校は、体験活動を取り入れていると思いますか。	84%		89%	-5
		児童	学校の活動では、体験（見る、聞く、触れる）や交流が取り入れられていると思いますか。	77%		87%	-10

【第2回 市全体との比較結果のまとめ】 ○成果 ●課題

○プラスの幅が大きかったもの

- ・児童「日々の学習で、タブレットを使っていますか」+11
- ・児童「困ったことがあった時に、相談できる先生がいますか」+7
- ・保護者「お子さんは、目標を持って学習したり生活したりしていますか」+6
- ・児童「目標を持って学習したり生活したりしていますか」+5

●マイナスの幅が大きかったもの

- ・児童「学校の活動では、体験（見る、聞く、触れる）や交流が取り入れられていると思いますか」-10
- ・保護者「学校は、体験活動を取り入れていると思いますか」-5

【総括】

20項目中 13項目（65%の項目）が市平均よりもプラスまたは±0ということであり、概ね良い結果だといってよいかと思われます。

プラスの幅が大きいものとして、「タブレット活用」があります。この項目は、昨年度も市平均と比較して、プラスの幅は大きかったものです。それでも、保護者との認識に40%近い乖離があり、これは学校側の周知に問題があるものと思われます。学校ホームページのみに頼ならい周知の方法を模索してまいります。

また、「目標を持って生活すること」については、児童・保護者ともに市平均よりも数值が高く表れています。目標を見据えて学習や生活をすると、そうでないとでは、成果に差が出ると思います。そのため、子どもたちが目標を持っているのは素晴らしいことだと思いますので、引き続き学校では、子どもたちのサポートに全力を尽くします。

さて、マイナス面です。マイナスの項目はいくつかありますが、多くは市平均と同程度のものが多いです。しかしながら、やはり気になるのは「体験活動」についての項目です。この項目は、児童・保護者ともにマイナスの幅が大きく表れています。

そもそも「体験活動」とは、子どもたちが「見る、触る、やってみる、感じる、考える」などを通して学ぶ活動の全般を指しています。実体験を通して生きた学びにつなげるのが大きな特徴です。

それでは、大まかにどんなものが体験活動に当たるのでしょうか。例えば、公園探検、昆虫採集、自然観察、町探検、高齢者の方々との交流、梨の学習、調理実習、地域行事への参加、演劇鑑賞、音楽鑑賞、落語教室、校外学習、宿泊学習、なかよし活動をはじめとする異学年交流活動、地域の方々との学習、その道のプロをお迎えする学習、〇〇体験に当たるものなどなど、多くが体験学習となります。

これら子どもたちにとって大切な学習が、市平均よりも児童・保護者ともに大きく低い数字であったということは、大いに課題であると考えます。子どもたちの生きた学びにつながるような体験学習を意図的に多くしていく所存です。

今後も良いところは伸ばし、課題は改めることに取り組み、よりよい学校運営に生かしてまいります。今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願ひいたします。